

京北くろだ里の駅プロジェクト

京北くろだ里の駅プロジェクト実行委員会
川口紗英子



申請者について

小学校教師を目指すなかで、
子どもを取り巻く食の問題に関心をもつ



「食育」を仕事にしたい



飲食関係、出版社、旅行代理店、NPOなど
様々な仕事を経験



ワークとライフのバランスがとれず、
ワーキングマザーとしての生き方を模索する三児の母

空き家との出会い

ニュース

京都新聞社
The Kyoto Shinbun Co., Ltd.

地元商店が移住を後押し 京都・京北、空き家とマッチング



空き家になっている古民家で納豆餅づくりを体験する親子連れたち(京都市右京区京北下黒田町)

京都市右京区京北の黒田地域にある地元密着型商店「おーらい黒田屋」が、空き家と移住希望者をマッチングする事業を本年度から始めた。住民との信頼関係を基に空き家活用を任せてもらい、入居者の面談や集落に溶け込むサポートまで行う。民間主導で空き家を解消するモデルとして期待されている。

黒田は上桂川最上流域の自然豊かな地域だが、住民が都市部に流出し、民家160軒のうち約4分の1が空き家状態にある。仏壇があるため家を貸しづらかったり、地域の事情を知らない不動産業者に任せるのに抵抗を感じる家主が多いという。

黒田屋は地域住民が運営する有限会社で、地域事情や住民を熟知していることから、移住者との橋渡し役を買って出た。去年は全戸にアンケートして空き家の状況や家主の意志

を把握し、賃貸や売却物件の情報をホームページなどで発信しはじめた。

移住希望者に対しては面談の場を設け、生活の不安を解消したり、集落のルールを教えたりすることで、地域に入れるよう全面的に支援している。就農者の若者が移住の決断までこぎ着けたケースもある。

14日には古民家で、都市住民対象の田舎暮らし体験会も開いた。住民を含め約50人が参加し、納豆餅や味噌作りを通じて顔の見える関係を築いた。京都市北区から子連れで参加した女性(36)は「移住の決断をするのに、冬の暮らしや大変な面も見たいと思って来た。こんな環境で子育てできたら幸せ」と手応えを話していた。

今後は空き家提供者が増えるよう、成功例を示すなどして住民に働きかける。黒田屋の大和田信也さん(73)は「空き家を掘り起こし、1人でも多く受け入れたい」と意気込む。相談窓口は黒田屋TEL075(856)0968。

【2016年02月16日 17時10分】



味噌作り



納豆餅作り



とんど

菱餅焼き



◆豊かな自然、温かい地域コミュニティ

→子育てに適している環境

◆立地、市内中心部からのアクセスが良い

→ワーク・ライフ・バランスを実現できる場

◆おーらい黒田屋…黒田自治会と地域住民の出資により旧 JA 跡地にオープン。日用品・食品の販売を行う黒田地域で唯一の商店、地域コミュニティの要。

2015 年に空き家活用部を設置。

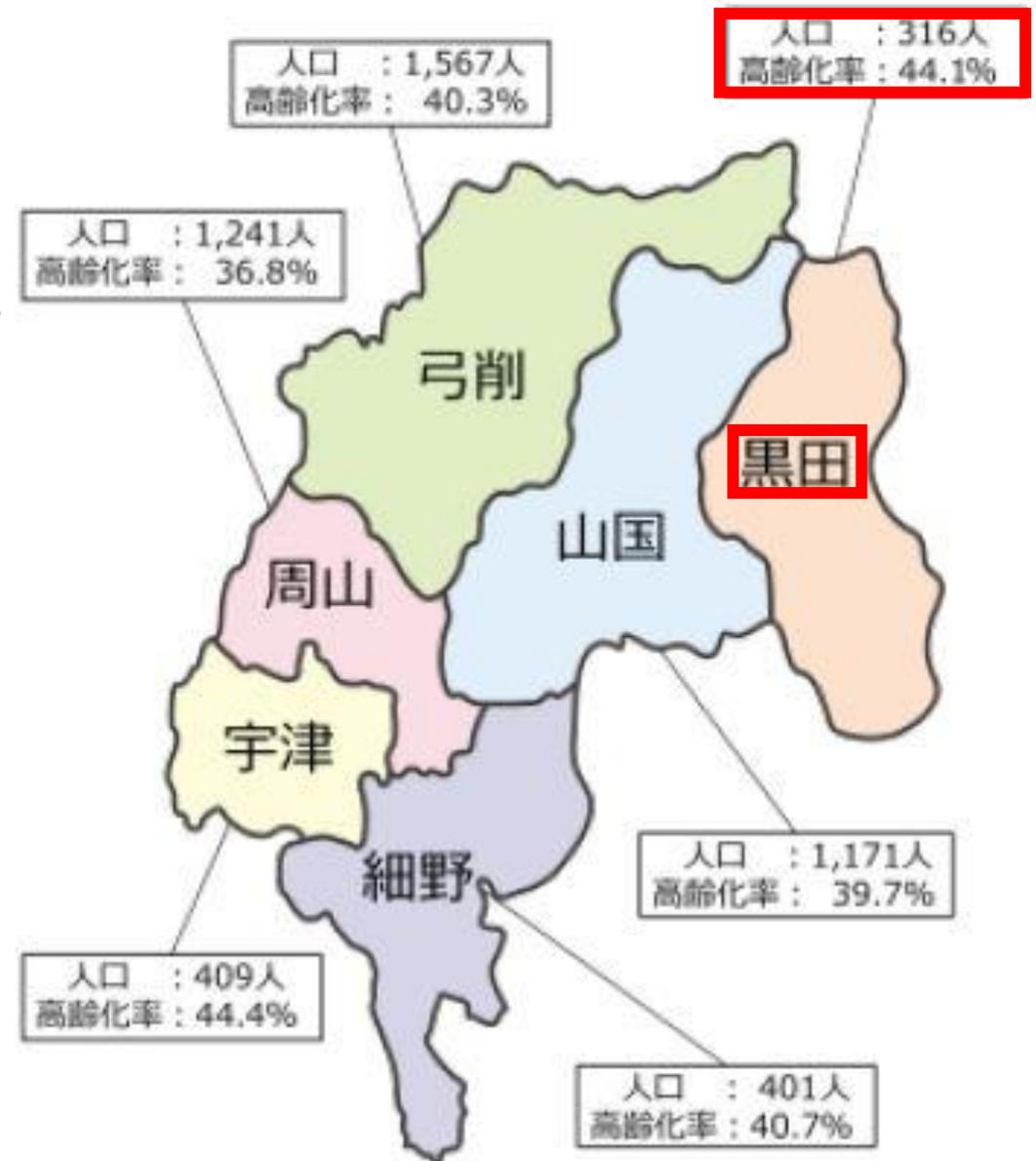
- ・地域のルールを教わる
- ・空き家所有者との面談
- ・地域に溶け込むサポート



「黒田で暮らしたい！」
不安を自信に変え、移住を決意



応募の背景と地域の課題





過疎化、高齢化、商業施設が少ない



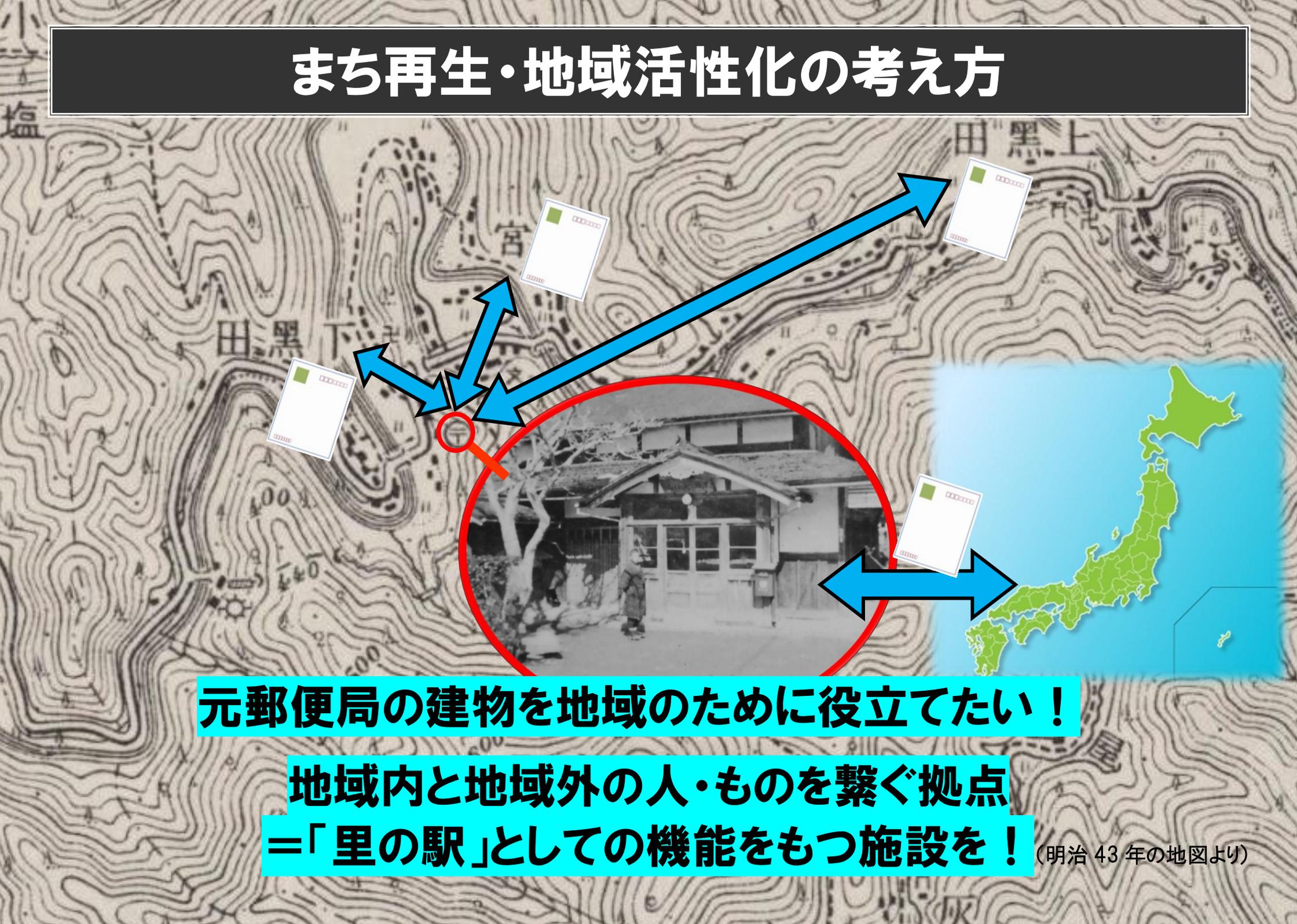
地域の一員となり 地域の課題に ともに取り組む

まち再生・地域活性化の考え方

元郵便局の建物を地域のために役立てたい！

**地域内と地域外の人・ものを繋ぐ拠点
＝「里の駅」としての機能をもつ施設を！**

(明治43年の地図より)



プロジェクトの目的

1. 地域活性化
2. 移住・定住の促進
3. 田舎暮らしや日本の食文化に関する知恵の伝承

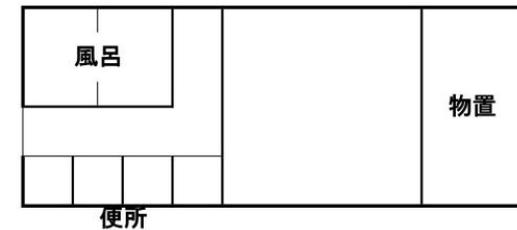
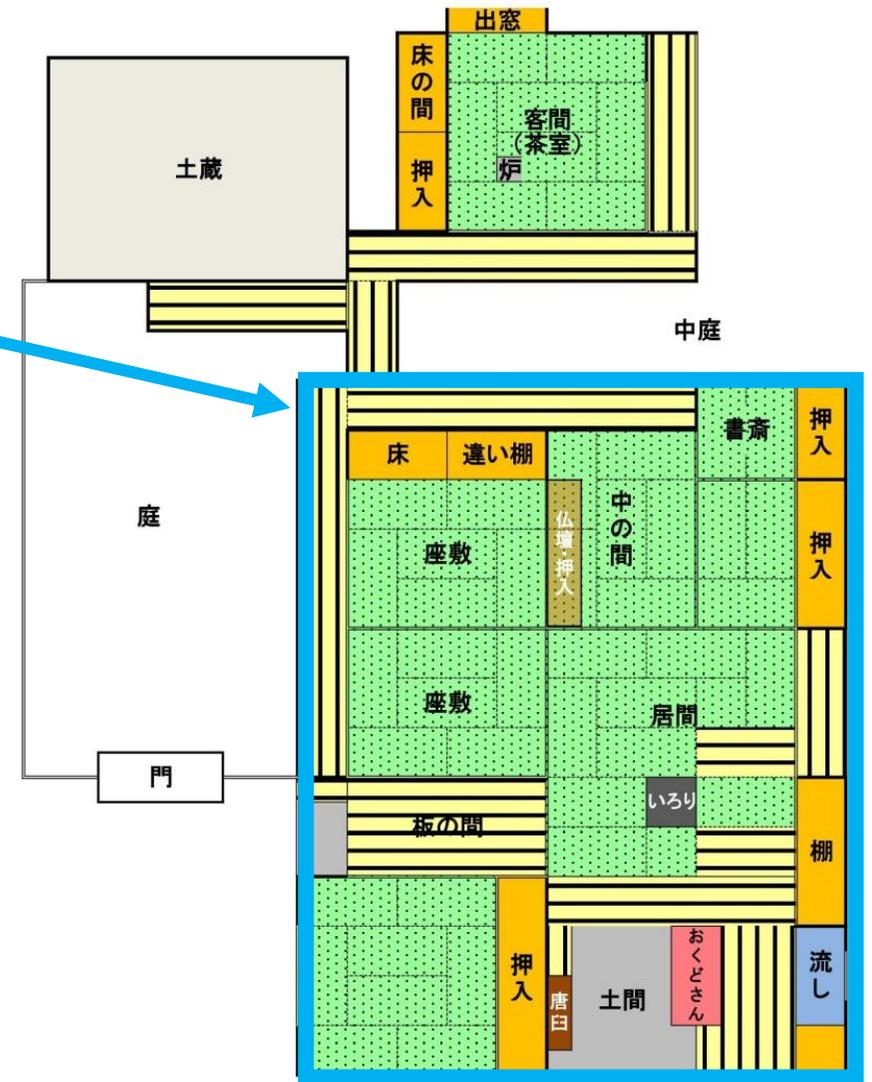
事業内容

1. カフェ・レストラン事業
2. 物販事業
3. 黒田暮らしサポート事業
4. その他

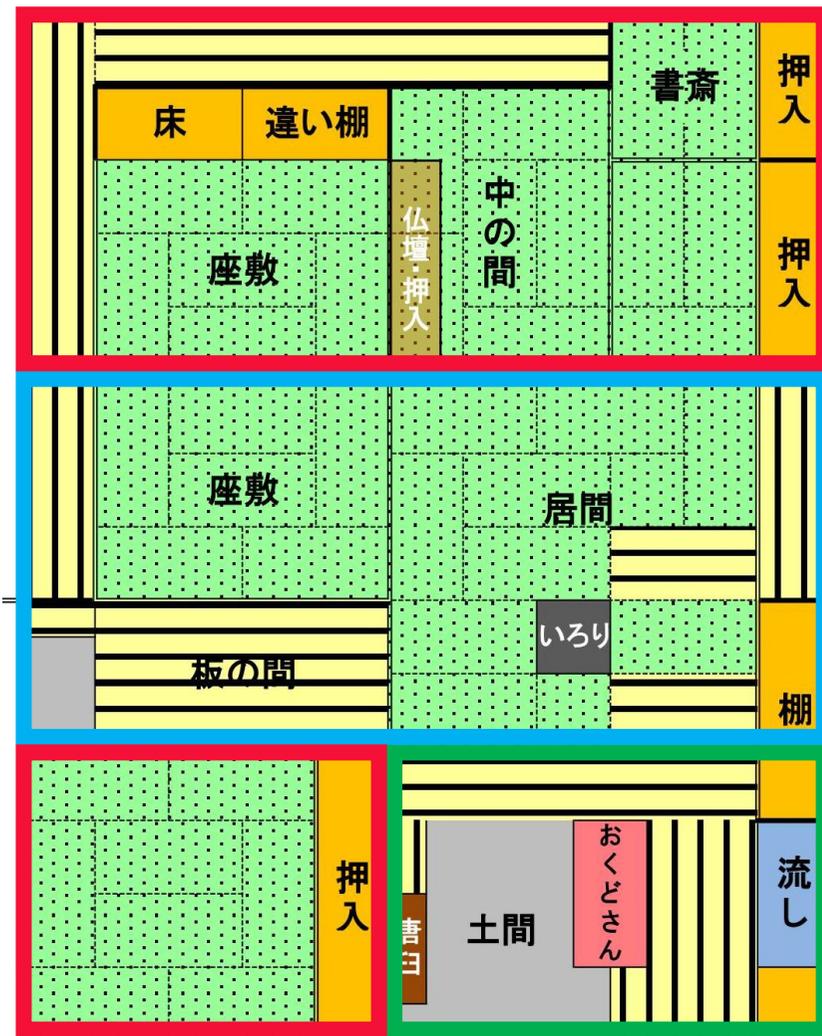


初期整備の内容

- ◆母屋部分の改修をメインに
- ◆住居兼店舗として、住めるようにする
営業施設基準を満たす



店舗部分	居間	薪ストーブと囲炉裏のある客席 カウンター越しにおくどさん・から うすを眺める
	座敷	庭と田園風景を眺める客席 気候が良い季節は縁側にも席を 設ける
	板の間	物販エリア(農産物、特産品等) インフォメーションスペース (観光案内、イベントチラシ)
住居部分	書斎	住居用キッチン ペレットボイラー
	中の間	生活スペース (風呂・トイレ・洗濯機)
	八畳間	生活スペース、物置
厨房	土間	左官工事、排水口の整備、 シンク、コンロ、業務用冷蔵庫・ 冷凍庫・製氷機などを設置



これまでの取り組み

10/22(土)第1回リノベーションワークショップ



地域のお話
プロジェクトの説明



空き家と周辺を見て回る



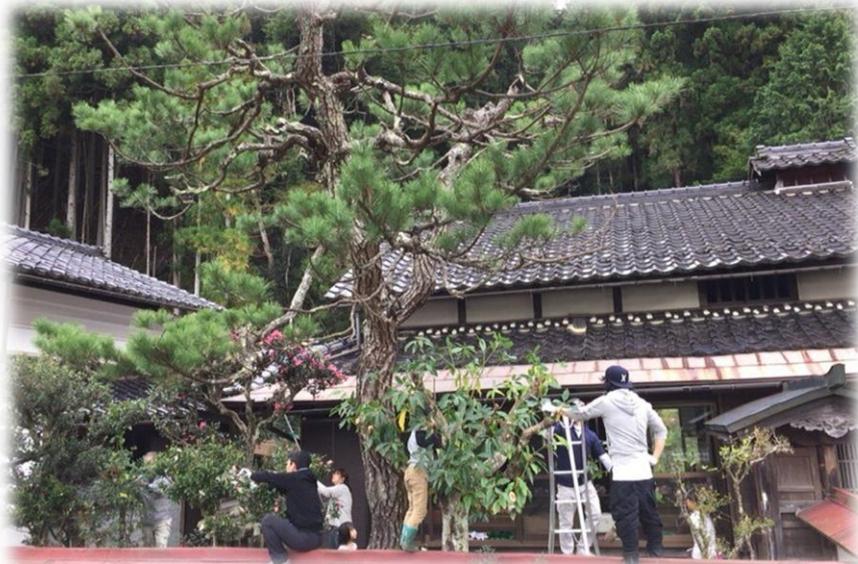
昼食作り



黒田産の野菜たっぷりのランチ



作付準備(マルチシートかけ)



庭の掃除、庭木の剪定



**恋咲楽店主、黒田自治会長、
おーらい黒田屋取締役と**

- 地域住民、地元農家、京北の飲食店との人的ネットワーク作り
- Facebook、ブログでの情報発信
- 京北第二小学校の保護者との出会い
- OKU 京都ねっと(左京区花背の移住支援団体)との繋がり



地域への波及効果

◆経済効果

- 地域住民から農産物や加工品を仕入れる
- 農産物、木工品などの委託販売を行う
- 将来的に雇用の創出を目指す

◆地域活性化

- 地域の憩いの場となり、人と人の繋がりを強める
- 地域の魅力をブログ、SNS で積極的に発信する

◆黒田への来訪者(=将来の移住者)を増やす

- ・自転車、バイク、車で通過されていた地域に立ち止まってもらう
- ・建物にまつわる昔話や田舎暮らしの知恵を聞き取り、広く発信
- ・田舎暮らしによって再形成される自身の価値観、生き様をアピール

地域を支える住人となり

魅力あふれる黒田を次世代に引き継ぐ

プロジェクトのモデル性

① 民間主導で空き家を活用する事業の展開であること

- ◆ 地域コミュニティの要である有限会社おーらい黒田屋の取り組みがきっかけ
- ◆ おーらい黒田屋の全面的な支援を受けられる
- ◆ 地域の資産である空き家を活かし、誰もが利用できる施設の運営を目指す

② 移住をして地域の一員になること

- ◆ 職住一体の暮らしによって、長時間営業を実現、時間外の業務にも応じる
- ◆ 自治会、消防団等の地域活動に積極的に関わり、ともに地域の課題に取り組む

③ 子育て中の母親であること

- ◆ ワーキングマザーがワーク・ライフ・バランスを実現する
- ◆ 母親同士の連携で中山間地域を盛り上げ、地域の子どもを増やす

ご静聴ありがとうございました

